様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ０２７３４

研究課題名（和文）教師のパフォーマンス力を高めるためのLODを活かした教師教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a teacher education program utilizing LOD to enhance teacher performance

研究代表者
三戸　治子（酒向治子）（Mito, Haruko）

岡山大学・教育学域・教授

研究者番号：７０３６１８２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、教師の非言語的パフォーマンス力を向上するための、実践的な手法の「CCEI」の開発と実践に取り組んだ。「CCEI」は、①創造力（Creative）・②コミュニケーション力（Communicative）・③表現力（Expressive）・④想像力（Imaginative）の頭文字を組み合わせた造語であり、ルドルフ・ラバンの身体理論を基盤とするLOD（Language of Dance）を採り入れた即興的身体表現アプローチである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
教員養成課程や教員研修会では、指導法として指示・発問（質問）・説明の仕方など、「言語的」要素（指導言）が検討の中心になる傾向にあった。しかし、教師がいかに刻々と変化する状況の中で学習者の発する非言語情報を読み解き、臨機応の即興性を重視したパフォーマンスをするかが創造的な学びの成否を左右するため、教師はこうした教授技法を自覚的に学ぶことが不可欠である。CCEIは非言語的なパフォーマンス力を高めるために開発された、身体性に重きが置かれた実践的アプローチとして、教師教育分野に貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：In this study, we worked on the development and implementation of a practical method, “CCEI,” to improve teachers' nonverbal performance skills. CCEI is a term coined from the initial letters of (1) Creative, (2) Communicative, (3) Expressive, and (4) Imaginative, and is an improvisational approach to physical expression that adopts LOD (Language of Dance) based on Rudolf Laban's body theory.

研究分野：舞踊学　舞踊教育学　ダンス教育　身体表現学

キーワード：舞踊教育　　ダンス教育　身体表現学　LOD(Language of Dance)　CCEI　即興

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

ドイツの教育学者 H.マイヤーは、著書『授業方法・技術と実践理念』（原著 1987; 原田編訳 2004）の中で、教師のパフォーマンスがいかに学びの空間に影響を与えるかについて触れ、無意識的であることが多い身体言語を技法として意識的にコントロールすることによって教室の雰囲気が変容すると述べている。つまり、教師が創造的な学びの場を創る（演出）するためには、教師自身が言語的な情報のみならず身体言語によって教授する（演じる）必要がある。

一方で、従来の教員養成課程や教員研修会などでは、指導案を基にした模擬授業を行うものの、吟味の中心は指示・発問（質問）・説明の仕方など、指導の「言語的」要素（指導言）が検討の中心になる傾向にあった。しかし、教師がいかに刻々と変化する状況の中で学習者の発する非言語情報を読み解き、臨機応の即興性を重視したパフォーマンスをするかが創造的な学びの成否を左右するため、教師はこうした教授技法を自覚的に学ぶことが不可欠である。

身体言語（パフォーマンス）を育む方法という点で着目すべきは、舞踊教育において蓄積されてきた多様な即興法であろう。学校教育において「即興表現」は平成 11 年より学習指導要領に明記されている。しかしながら、それらは上演を前提とする作品創作の一段階に位置付けられる傾向にあり、また演劇と異なり教師の資質形成への応用という点からのプログラム開発が未開拓であるという課題を抱えている。

LOD（Language of Dance）は、ルドルフ・ラバンの身体理論に基づき、人間の身体運動の最も根幹的な要素を動詞（主要な 16 種類の動作）・副詞（動作の質）・名詞（身体部位）に記号によって分類し、楽譜のように動作譜として動きを視覚化できるように開発されたものである（表 1）。LOD の先行研究では、LOD は動きを言語として可視化できるというその特性から、他者との共有・検討・協働的な創造の作業を可能にするということを明らかにされている（酒向、2004）。そこで、教師のパフォーマティブな指導力育成に貢献すべく、この LOD の特性を活かし、言語/身体言語それぞれの良さを取り入れた、融合型の即興プログラムを新たに開発することとなった。

表 1：LOD の動きのアルファベット

1	Any Action		5	Any Rotation		9	A Spring		13	Motion Toward	
2	Stillness		6	Any Traveling		10	Balance		14	Motion Away	
3	Any Flexion		7	Any Direction		11	Falling		15	Any Still Shape	
4	Any Extension		8	Support		12	Destination		16	Any Form Of Relating	

（LOD の動きのアルファベットを基に 2005 年　作成　酒向）

２．研究の目的

教師のパフォーマンス力の向上が必須であるという認識の下、実践と修正を繰り返しながら LOD を採り入れた教師のパフォーマンス力を高めるための新たな身体表現教育法の開発と実践を行うことを本研究の目的とする。

３．研究の方法

第一段階として、教師教育に資する即興を土台とした身体表現法の開発にあたり、演劇領域で既に実践されている即興専門家の実践と指導法の分析を行う。そこで得られた知見も踏まえつつ、新たな即興による身体表現法を教師教育に採り入れることの意義についての理論的検討を行う。第二段階として、LOD を用いた具体的な身体表現法の内容を構築し、実践を行う。また、第三段階として、成果発表を経て外部の評価を受ける。

４．研究成果

上記の研究成果として、概略的に注目すべき点について述べる。

（１）インプロに見られる身体的思考の発露

研究では、「インプロ」と呼ばれる即興劇の手法に着目した。「インプロ」とは、キース・ジョンストン（Keith Johnston）が 1950 年代にイギリスで構築した即興演劇の手法である。現在日本においても、教師の学習者への対応力を磨くために教師教育の手法として活用されている。そこで、本研究では、質的研究方法修正版グラウンデット・セオリー・アプローチ（以下 M-GTA）を用いて、インプロの第一人者である今井純氏の実践指導実践の構造的特性を明らかにすることにした。

今井氏の指導実践の中核にあるのは、「指導時に（頭で考えるのではなく）身に任せる」という、学習者の状態を頭による思考ではなく、身体的な感知によって把握し、即座にリードするという指導者のあり方である。舞踊教育学において現象学的観点から即興を論じたマクシーン・シーツ＝ジョンストン（Maxine Sheets-Johnstone）は、身体での体験によって理解していく思考

について、「動きにおける思考（thinking in movement）」と表現している。今井のインプロ指導実践は、身体そのものの働きに着目するシーツの「身体的思考」の発露ともいえる。学校の教育場面では、常に指導計画など構造（学習成果）と自由な模索（即興）の揺れの中にあり、学習者を受動的にさせないためには、常にコンテクストに応じた調節が必要となる。「主体的・対話的で深い学び」を導く実践的指導力の鍵となるものの一つが、学習内容やマニュアル的諸指導技術ではなく、その深層としての身体的思考であることが浮き彫りとなった。その成果は学術論文にて成果を発表している（2023　伊藤圭祐・酒向治子「主体的な学びを導く実践的指導力に関する研究：今井純のインプロ指導に着目して」『体育・スポーツ哲学研究』vol.46 No.1,pp.97-118）。

（２）LOD を用いた具体的な身体表現法「CCEI」

「CCEI」とは「①創造力(Creativeness)」・「②コミュニケーション力（Communication skills)」・「③表現力（Expressiveness)」・「④想像（イメージ）力（Imaginativeness)」・の頭文字を組み合わせた筆者の造語である。「創造力」を起点に考えたときに、関連して求められる「コミュニケーション力」「表現力」「想像力」という主要な三つの力との関係性を構造的に捉える概念である。創造の基盤を身体［からだ］とし、他の要素と分かち難く複合的に関連しあっていると捉える（図 CCEI 構造図）。すなわち、CCEI におけるコミュニケーションにおいて、特に［からだ］による非言語コミュニケーションを重視する。「想像（イメージ）」を軸に他者と関わり続けることによって、＜何か＞が外材化される。その偶然的＜何か＞の外在化こそ、看過されやすい「表現」の一つのあり方である。表現の根幹を［からだ］とし、創造プロセスにおいて身体的思考を重視する捉え方は、＜表現＝［頭で考えた］思考を具現化する＞という図式に収斂する従来の表現理論と異なる新たな視点を提起する。

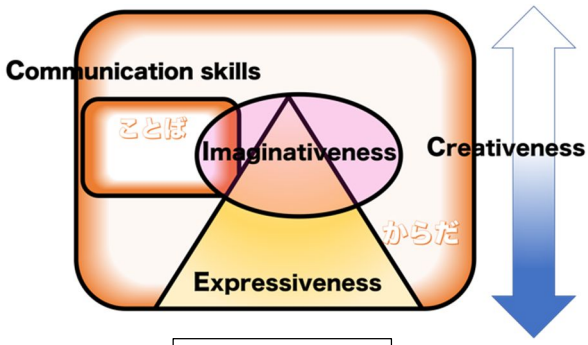

図 CCEI 構造図

上記の理論を土台として、本研究ではさらに LOD を採り入れた具体的な CCEI 能力の育成を図るプログラムを開発した。

CCEI の理論ついては、書籍として成果発表を行なっている(2022 年出版『子どもが問いを生み出す時間』「からだを軸とした探究的な学習」pp.30-43；2023 年出版「第 4 章 第 3 節 感創を身体表現(ダンス)の観点から考える」『教育科学を考える』pp.157-169.)さらに、講演会における発表として就実大学における公開シンポジウムでの基調講演(題目「未来を拓く CCEI 教育-身体表現の立場から-」全体テーマ『創ることを教える-大学表現教育の現在-』；2020 年 9 月 14 日)、第 11 回日本ダンス医科学研究会学術集会における基調講演(題目「ダンスが育む資質・能力～CCEI の力～」2021 年 3 月 14 日)、岡山大学大学院教育学研究科附属国際創造性・STEAM 教育開発センター（CRE-Lab.）主催の国際フォーラム（全体テーマ『創造する身体』2022 年 3 月 6 日）等において成果発表を行っている。

また指導実践として、岡山大学における授業 2022 年度～2024 年度における『身体表現学』授業、CRE-Lab.主催の国際フォーラム（全体テーマ『創造される日常』）における「響き合う身体」と題する特別ワークショップ（2023 年 3 月 19 日）や、高校生のためのアートの授業「Art in School」における「感覚を拓く身体表現の世界」と題するワークショップを実施している（2023 年 10 月 2 日）。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 薮井 琴子・酒向治子	４．巻 13
２．論文標題 「オノマトペを用いたダンス指導に関する実験的研究」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	６．最初と最後の頁 pp.191-205.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/CTED/65073	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 福武 幸世・太田 一枝・酒向治子	４．巻 13
２．論文標題 「創作ダンス指導における教師の省察に関する質的研究-熟練教師の「行為の中の省察」に焦点を当てて-」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	６．最初と最後の頁 pp.207-219.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/CTED/65074	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 酒向治子	４．巻 12月号
２．論文標題 「激動の時代に向けたダンス教育の意義」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『体育科教科』（特集　ポストコロナの表現運動・ダンスの授業）	６．最初と最後の頁 pp.12-15.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊藤圭祐・酒向治子	４．巻 vol.46 No.1
２．論文標題 「主体的な学びを導く実践的指導力に関する研究：今井純のインプロ指導に着目して」	５．発行年 2024年
３．雑誌名 体育・スポーツ哲学研究	６．最初と最後の頁 97-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　5件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 吉村利佐子・酒向治子
２．発表標題 「身体的感性を育む身体教育プログラムの実践とその教育効果」
３．学会等名 第44回大会日本体育・スポーツ哲学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 酒向治子
２．発表標題 「言語的思考」と並び，創造性の軸となる「身体的思考」という資質・能力」
３．学会等名 岡山大学大学院教育学研究科附属国際創造性・STEAM教育開発センター（CRE-Lab.）主催CRE・Lab　FORUM2022（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 伊藤圭祐，酒向治子
２．発表標題 「「主体的な学び」に求められる教師の実践的指導力-インプロの指導法に着目して-」
３．学会等名 日本教師教育学会第30回研究大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 酒向治子
２．発表標題 「未来を拓くCCEI教育-身体表現の立場から-」
３．学会等名 就実大学公開シンポジウム全体テーマ「創ることを教える-大学表現教育の現在-」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 酒向治子
２．発表標題 「ダンスが育む資質・能力～CCEIの力～」
３．学会等名 第11回日本ダンス日本医科学研究会学術集会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 趙　穎妍／酒向治子
２．発表標題 「台湾の舞踊教育におけるラバン・ムーブメントシステムの導入と発展に関する研究 ―1940 年代から 1990 年代に着目して―」
３．学会等名 舞踊学会第26回定例研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Wing-In Chiu, Nagisa Ohashi, 酒向治子Haruko Sako
２．発表標題 An Examination of the Influence of the Laban/ Bartenieff Movement System (LBMS) on the Process of Dance Creation: A Case Study of Experienced Classical Ballet Dancer
３．学会等名 Asia-Pacific International Conference on Arts & Humanities（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Risako Yoshimura, Miki Ozeki, Haruko Sako
２．発表標題 Dance Image of Japanese University Students」2024　Asia-Pacific International Conference on Arts & Humanities
３．学会等名 Asia-Pacific International Conference on Arts & Humanities（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 酒向治子
２．発表標題 「フューチャールームの子どもたち」
３．学会等名 岡山大学大学院教育学研究科附属国際創造性・STEAM教育開発センター（CRE-Lab.）主催CRE・Lab　FORUM2021（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 酒向治子
２．発表標題 「響き合う身体」
３．学会等名 岡山大学大学院教育学研究科附属国際創造性・STEAM教育開発センター（CRE-Lab.）主催CRE・Lab　FORUM2023（招待講演）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計4件

１．著者名 桑原敏典・清田哲男編著	４．発行年 2022年
２．出版社 日本文教出版	５．総ページ数 192
３．書名 『子どもが問いを生み出す時間』	

１．著者名 小川容子・松多信尚・清田哲男編著	４．発行年 2023年
２．出版社 岡山大学出版会	５．総ページ数 369
３．書名 『教育科学を考える』	

１．著者名 弓削田綾乃・高橋京子ほか編著	４．発行年 2020年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 199
３．書名 映像で学ぶ舞踊学-多様な民族と文化・社会・教育から考える-	

１．著者名 髙橋徹編著	４．発行年 2024年
２．出版社 株式会社みらい	５．総ページ数 215
３．書名 みらいスポーツライブラリー 体育原理	

〔産業財産権〕

〔その他〕

酒向治子研究室
https://sakolabo.jp

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関